

# 地質ニュース

第474号 1994年2月

## 目 録

活動を続けるインドネシアの火山	白尾 元理
雲仙普賢岳の噴火活動	杉本 伸一
メルトインクルージョンからマグマの情報を抽出する	
—マグマの脱ガス過程の解明をめざして—	斎藤 元治・6
大規模マグマ溜りからの火山ガス・熱水の放出モデル	
—火道内マグマ対流およびマグマ溜りの固化に伴う脱ガス—	風早 康平・篠原 宏志・12
化学平衡計算とキネティクス	
—深部地熱系における接触変成作用解明に向けて—	竹野 直人・18
ストロンチウム同位体を用いた地熱流体母岩の推定	
—奥鬼怒温泉地域における研究例—	佐藤 努・中野 孝教・23
地元住民の見た雲仙普賢岳噴火活動(その2)	杉本 伸一・27
1993年鹿児島水害を見る	川辺 禎久・41
ルミネセンス顕微鏡・分光分析を利用した岩石・鉱物の研究	
	塚本 斉・46
1994年ノースリッジ地震の震度評価(速報)	
	丸井敦尚・James M. Wilkinson・57
編集後記	
	石井 武政・63

## 表 紙

インドネシア、アグン火山とパツールカルデラ：インドネシアは東西4,000 kmにわたって火山の連なる火山国である。過去400年間の世界の火山災害による死亡者のおよそ半数(約15万人)をこの国が占めることから、インドネシアの火山活動の激しさの一端を思い知らされる。写真は西側から見たバリ島のアグン火山(写真の遠景、海拔3,014 m)とパツールカルデラ(近景、海拔2,152 m)である。アグン火山1964年の噴火では、火砕流で約700人の死者を出している。パツールカルデラの後カルデラ丘からは、今世紀に8回の玄武岩質溶岩が流出している。(写真と文：白尾元理)

通商産業省  
工業技術院

# 地質調査所

〒305 茨城県つくば市東1-1-3

Tel. 0298-54-3520, Fax. 0298-54-3533

Geological Survey of Japan